

# 財っ子通信 平成29年度 第2号

文責 校長：三樹和幸

やりたいこと できることが増え

やらなければならないことが 確実に定着し みんなが伸びる学校

財光寺小学校

電話：54-2825

校長 Email:

zaikoji-k@hyugacity.jp

## 名前を大切に

新学期早々、教科書やノート類に自分の名前を書き込む子供たち。

自分の名前を丁寧にしっかり書いているでしょうか？子供たちの名前は、保護者の願いが沢山詰まったものであり、人生の道しるべとなるものでもあります。

誰にでも生まれてきたこと自体に意味があり、自分の人生を充実したものにするために、「命の使い方」が大切となります。それを「使命（命の使い方）」と言うのですが、それは「氏名」の中に入っていることが多いと聞きました。例えば、私は「和幸」というのですが、「平和で幸せな社会（学校）」にする意味があるのではないかと考えてみました。

そうであるならば、自分の名前を書く度に、そういう覚悟をしてみようかと思っています。子供たちも、だからこそ、意識して、自分の名こそ丁寧に書いて欲しいと思っています。

## 学びの基礎は家庭の中に

学力向上、学力向上と連呼されることの多い、昨今です。全国学力調査では、都道府県ごとのランキングをマスコミが公開したり、県内では地域ごとの様子を比較したりもしています。本校も、子供たちの学力を引き上げるために学力向上部を中心に様々な手を打っています。

- ・ どの子も、できた実感を味わわせるための G1 グランプリ
- ・ 基礎基本充実のためのスキルアップタイム（朝の15分）
- ・ 基礎基本の確実な定着とレベルアップのためにスキルパワーアップ（週に1時間）
- ・ 読書に楽しさを実感させ、意欲を持たせるためのビブリオバトル
- ・ 3年生算数指導での「よのなか花まる先生」の毎時間のサポート
- ・ 4年生、6年生での算数少人数指導
- ・ 5年生での専科の先生を活用した算数支援

などなど、様々なアプローチが日常化しています。

しかし、学習は、突然として学校で始まるものではありませんし、生活を豊かにするために学びがあるという前提を忘れてはいけないと思います。

例えば、10個のミニトマトを家族4人で分けるなんてことは、夕飯時にあることだと思います。そこが大チャンスです。

親が分けるのではなく、子どもに手伝わせる。そして、迷わせる。

4人に分けて、2個余るようなことを考えれば、余りのある割り算の概念が生まれるでしょうし、体の大きさに合わせて個数を考えれば割合の概念が生まれるでしょう。算数の教科書で、初めて出てくる勉強ではなく、勉強は意識せずとも生活体験と結びついている経験が、特に小学校の場合は大切です。しかも、勉強に役立ち感が出てきます。ただの計算式の問題には強いが、文章で問われると弱い子どもは、概念が充分育っていないからだとも考えます。

子どもを大いに家事に参加させて下さい。目に見えない学力を伸ばしましょう。

